

流す汗には価値がある

日本の労働人口は減少していきます。2030年には現在の6千万人余から1千万人くらい減ると推計されています。そこでそれを補うために外国人労働力の導入の他、60歳以上の高齢者と特に30歳台の女性の労働参加が望まれているというわけです（厚労省雇用政策研究会等）。そういう状況の中に福祉の現場があります。

福祉を支えるのは人です。スタッフの確保や育成、定着がどこにおいても大きな問題となっています。有効求人倍率とは仕事を求めている人（求職）と、人を求めている企業（求人）の関係を表わしますが、福祉の世界ではそれは全国平均で4.48倍で（東京都は3.62倍／平成29年度、中央福祉人材センター）応募者がなかなか集まらないという厳しい状況です。ただ、職種によってはかなり違いがあり、人が比較的集まっている分野もあります。そういう中で法人は「わくらす武蔵野」の開設に伴い、昨年度多くの有為な人材を得ることが出来ました。その新人は各職場に散って現在奮闘中です。

現場というのはご利用者やご家族、そして地域社会との関係の中で多くのことが学べ、それまで気が付かなかった自分の力を引き出すこともできる大変魅力あるところです。もちろん様々な制約や条件はありますが、私はその制約や条件のなかで創造性をどう働かせるのが大事だと考えます。これは仕事の面白さにも通じることでもあります。まずは仕事の目標をふまえて上司と率直に話しあい、チームで切磋琢磨してより良い実践を重ねて欲しいと願っています。現場で流す汗は無駄ではありません。それが自分のエネルギーを増大させてくれます。法人もそれに応え、皆さんが育つことを願って働きやすい職場づくりをさらに進めたいと思います。

（令和元年8月）